

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

573-324

事務事業名	公共下水道汚水管渠改築改修事業(飯田処理区)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	水道環境部	課等名	下水道課		包含する細々目	12	2	1	2	10	99	98,500
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	45 居住基盤の向上											
実施区分	継続	会計	下水道	環境調整会議	不要	関連計画条例等		雨水計画、飯田市下水道整備基本計画、下水道法、都市計画法、水質汚濁防止法、下水道条例				
		事業期間	10	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値							
	・布設後50年を経過した管渠を中心に既設の下水道管全体を対象とします。	管渠調査済累計延長(m)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする				
			30820	40800						
	・管渠の流下能力確保と不明水の削減を目指します。	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)							
			18目標	16214	最終目標					
	18実績	16388.9	19目標	17515.9	最終目標達成年度	↑				
23目標							22125	23実績		
18目標								最終目標		
18実績								19目標		
23目標		23実績								

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<p>・下水道管への雨水や地下水等の侵入を防ぐために下水道管の改築と改修を目的とし、原則的には布設後50年を経過した下水道管を中心にカメラ調査を行い、その結果により工事を進めますが、他事業(土木・水道等)と同一施工すべき箇所や破損が明らかとなった下水道管を含め継続的に改修を行う事業です。</p> <p>・工事方法は布設替及び、開削しないで管の内面をライニング補修する管更生工法を採用しています。</p> <p>・H18迄50年経過管渠延長 L=26,891.4m (飯田処理区のみ)</p> <p>・H18年度迄改修済延長 L=16,388.9m</p>	<p>・改訂第4次下水道整備基本計画により下水道管改築改修工事をL=1,224.3m、下水道管内のカメラ調査をL=4,707mを実施しました。</p> <p>・国の制度の存続を求める中で、第2次下水道施設改築計画に向け下水道管内のカメラ調査を進めました。</p>	<p>改築改修率 改修済み延長/50年経過管延長</p>	60.9
		<p>・平成19年度には下水道管改築改修工事をL=1,127m、下水道管内カメラ調査をL=2,000m行う予定です。</p> <p>・河川・水路沿線の侵入水がある箇所やH18年度カメラ調査により改修が必要な箇所を重点に改築、改修を進めます。</p> <p>・国庫補助の動向を見ながら第二次下水道施設改築計画を策定する予定です。</p>	<p>改築改修率 改修済み延長/50年経過管延長</p>	62.3

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定国庫支出金	30,000	25,000
	特定県支出金	0	0
	財起債	27,000	22,500
	財源その他	0	0
	一般財源	45,588	51,000
事業費計(A)		102,588	98,500
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,800	19年度 2,000
	臨時職員等所要時間	20	20
	人件費計(B)	6,458	7,174
	トータルコストA+B	109,046	105,674

特定財源内訳や補足事項	公共下水道管渠(汚水)改築事業(国補1/2) 下水道事業債(補助残90%)
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	有収率(%) (料金収入による汚水を処理する割合)	現状値	71.4	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

<p><b>この事業を開始したきっかけ</b></p> <p>・下水道管の長期間使用により、老朽化が進み破損、管ズレ、蛇行等による流下能力の低下が発生し、不明水の侵入が増加し松尾浄化管理センターへの流入汚水量が増加してきました。</p>	<p><b>事業を取り巻く状況の変化</b></p> <p>・当初は単独事業で実施してきましたが、H11年より国補事業を取り入れました。 ・将来的な国庫補助事業の継続は危ぶまれていますが、今後はこの事業が主役となってきます。 ・H14年に改築計画を策定しH19迄の事業認可を取得しております。 ・H19年度に第二次改築計画を策定する予定です。</p>	<p><b>事業に対する市民や議会の意見</b></p> <p>・浄化センターの地元である松尾地区からは、侵入水を防ぐために必要な事業として、事業進捗を強く要望されております。</p>
--	---	--

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) <b>結びつく</b> (その理由)</p> <p>・下水道管渠の流下能力の向上及び地下水の汚染を防止します。 ・不明水を減らすことにより、松尾浄化管理センターの処理効率と有収率が向上します。</p>	有効性評価	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) <b>余地がある</b> (その理由)</p> <p>・定期的な調査及び補修を行います。 ・誤接調査及び宅内排水設備の改善指導を行います。 ・マンホール(人孔)の更正を行います。 ・本管・取付管の改修を行います。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) <b>必要性がある</b> (その理由)</p> <p>・改築路線は毎年増えるため、拡大の必要があります。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) <b>影響あり</b> (その理由)</p> <p>・下水道管の流下能力低下による管詰まり、噴出が予想されます。 ・道路陥没が発生する恐れがあります。 ・浄化管理センターでの余分な水処理が増え、有収率が低下します。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>・流下能力確保と、不明水削減のため、改築・改修は永続的に必要であり今後事業量が増えていきます。</p>		<p>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) <b>統合不可能</b> (類似事業名、理由)</p> <p>・本管理設後50年以上経過したもので改築計画を策定し、国交省の承認が必要です。 ・処理区別の改築計画とされており、統合はできません。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>・下水道管理者である市が行う事業です。(維持管理費は使用料で賄っている。)</p>		<p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) <b>可能</b> (その理由)</p> <p>・TVカメラ調査結果により工法決定を行います。開削工法に比較し、管更生工法の方が仮設費・安全費が経済的であり、又、工期が短縮でき周辺住民への影響も少ないことから、総合的には経済的で削減につながります。</p>
			公平性評価	<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由)</p> <p>・本事業による直接の受益者負担はなく、下水道会計において包括的に下水道使用料に転嫁されており妥当と考えます。 ・受益者は排水区域内の市民の方です。</p>

## 【Plan】改革改善

<p><b>今後の事業の方向性</b></p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 <b>具体化</b></p>	<p><b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b></p> <p>・H17より人孔更生を計画的に行うようにした。流量調査結果により、侵入水の多い地区を発見し、下水道課・浄化センター職員全員によるローラー作戦を行いました。 ・H18の調査範囲は、諏訪町、伝馬町2、東新町1の一部、公共樹260箇所の調査を行い、誤接続4箇所を発見し改善をお願いしました。 ・H19年度も引き続き小伝馬町、大王路を中心にローラー作戦を行う予定です。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>・誤接続改善は自己負担が必要です。 ・屋根の雨水を排水する側溝整備や、誤接改善の補助制度を設ける検討が必要です。</p>
--	---

### 【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p><b>必要性がある</b></p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>	<p>2- 施設などを新設、改造、廃止するとき</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	<p>・公共工事における環境配慮設計、ISO公共工事環境配慮シ-トによる竣工時配慮率の目標値80パー-セントとして取り組みました。</p>		

### 【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	